

蘇州府志
卷之四

昭和三十五年一月二十二日招集
第一面臨時市議會會議錄

昭和三十一年館山市議令第一回臨時令々議錄

一 昭和三十一年一月二十二日午後二時館山市議令第一回臨時令々館山市役所分館會議室に招集

一 出席議員(三四名)

一 番	萩生田七郎	二 番	黒川佐太郎
三 番	炭谷川光江	四 番	加藤良太郎
五 番	田中忠藏	六 番	松本藤太郎
七 番	山本昇	九 番	志村信作
一〇 番	綾藤ゆき	一一 番	田中祿郎
一二 番	田村喜兵衛	一三 番	吉田辰雄
一四 番	北山茂雄	一五 番	江田徳太郎
一六 番	吉田勇治郎	一七 番	川名房吉
一八 番	安西政治	一九 番	嶋貫壮作
二〇 番	遠山ヨネ子	二一 番	飯田義男

館山市議会

二番 石橋利磯 二三番 山口 康

二四番 佐野 信 四五番 服田 順一

二六番 鈴木市藏 二七番 鈴木 孝

二八番 安沢徳順 二九番 岩崎 静敬

三〇番 石井 孝 三一番 鈴木 彦太郎

三二番 小林寅之助 三三番 山口 幸三

三四番 三沢 節 三五番 法木 嗣郎

三六番 嶋田 繁

一次席議員(一名)

二五番 服田 順一

一法第百三十一條による出席説明員

市長 田村 利男

助役 小出 武男
総務課長 段段 山内 貴実

建設課長

新井重助

秘書課長

山谷潤昶

厚生課長

渡辺茂

市民課長

高木哲三

税務第一課長

眞田森吉

第二課長

伊藤幸太郎

商工水産課長

羽山房雄

教育課長

工藤和平

庶務課長

鶴沢貫寛

監査委員

関 武夫

一本歳令の事務局長、書記及び職員

事務局長

高梨清一

書記

記

太田博雄

職員

員

兵藤恭一

職員 山口晴之

一 昭和三十五年第一回館山市議会臨時全議事日程

昭和三十五年一月二十二日午後二時開議

日程第一 臨時出納検査主令議員の互選について

日程第二 議案第一号 固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第三 〃 第三号 起債について

日程第四 〃 第三号 船形小学校校舎増築及び既設校舎補修経費資金

寄付收受について

日程第五 〃 第四号 船形小学校特別教室増築工事情員契約の締結について

日程第六 〃 第五号 生徒用机腰掛の購入について

日程第七 〃 第六号 館山市印鑑条例の一部を改正するについて

日程第八 〃 第七号 昭和三十四年度館山市ヤハズ出進加更正予算

一本日の全議に付して事件

議事日程に同じ

議長(萩生田七郎君)本日のお席議員数三十名 これより
昭和三十五年第一回臨時会を開会いたします。
本臨時会の議案説明のため田村市長、小出助役、完
戸収入役、山口課長、羽山課長、新井課長、渡辺課
長、高木課長、真田課長、伊藤課長、工藤教育長、
鶴岡課長、国益査査委員以上の出席を求めましての
で報告いたします。

議案を配布いたします。

(議案配布)

議長(萩生田七郎君)議案の配布はあります。
従って今期の決定を行います。

本市今の今期につきましては議会運営協議会
のご意見は本日というところでございます。
お諮りいたします。

館山市議会

今期と議会運営協議会の意見通り今日一日と決定いたしました。それと、黒議でございますか。

(「黒議」と呼ぶ者あり)

議長(萩生田七郎君) 黒議と認めます。

よって今期は一日と決定されました。

続いて議事録署名員の決定を行います。

お諮りいたします。

従来の例にならうとして議長の指名により決定いたします。それと、黒議でございますか。

(「黒議」と呼ぶ者あり)

議長(萩生田七郎君) 黒議と認めます。

よって九番議員志村信作君、三番議員鈴木彦太郎君、以上両君に決定いたします。それと、黒議

でございますか。

(裏議なしと呼ぶ者あり)

○議長(萩生田七郎君)が裏議なしと認めます。

よって決定いたしました。

本日の議事はお手元へ配布の日程表により工程いたします。

日程表一臨時出納検査立合議員の互選を議題としてします。本件は七月三十日招集の臨時議会で互選の方法、人数、任期等をお手元に配布の通り決定されたのであります。お人数は四名、任期は立合検査一回で、方法は議長、副議長、検査委員またはすでに立合議員となる者と除いた全員の方法で定め、その者と除いた全員のうちから選出するといふこととあります。

お諮りいたします。互選の方法は以上申しあげた

館山市議会

申し合せ協定により行いますことにとり異議あり
ません。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(萩生田七郎君) 異議なしと認めます。
よって決しました。

これより来る二月行われます当時は納税査の立
今議員四名のクジを行います。クジ棒の端を
黒く塗った棒をお引きの方を当選人といまし
ます。今職員を持参するクジ棒をお引き
願います。一番席の方からお願いいたします。

(抽籤)

(抽籤)

議長(萩生田七郎君) 今の抽籤の結果を申し上げます。
五番議員 田中忠藏君、一〇番議員 後藤ゆき君、一
二番議員 田村喜兵衛君、二四番議員 佐野信君、以上

四議員君と二月臨時出納検査の立合議員の当選人と
定めますことへご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(萩生田七郎君)ご異議なしと認めます。

よ、て決定いたしました。

議長(萩生田七郎君)つぎ日程才二議案才一号。

(書記朗読)

議案才一号 固定資産評価審査委員会委員の選任について
市友(田村利男君)和田守喜君は九重の人でございまして
永年千葉銀行に勤めておりまして非常に計数事
務に明るい人で前回評価委員でありましてが任
期満了となり選任したいと申されてあります。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

館山市議会

○議長（萩生田七郎君）ご異議なしと認めます。

和田委員を選任することへ同意することへ決定
いたしました。

○議長（萩生田七郎君）つぎ日程が三議案が二号

（書 記 朗 読）

議案が二号 起債について

○総務課長（山口 実君）議案が二号につきましてご説明申し上げ
ます。

館山湾改良事業負担金は本市へ二百四十万円の負
担金が参りてあるわけでございます。この負担金
を支払うべく二百万円の起債を起しまして処理し
ようとするものでございます。利率は大体六分
五厘償還方法は一年据置二十年以内へ償還す

る予定となっております。

○歳入(萩生田七郎君)御質疑ございませぬ。

○一ニ番(田村喜兵衛君)この改良事業の問題はどんな改良をするのか私わかりませんから教えてもらいたいと思ひます。

○総務課長(山口 実君)三十四年度の事業といつてまして

館山海岸改良のため八百万円、予算で処理さ

れておるわけでございます。その八百万円のうち三百

二十万円が国負担、果が二百四十万円、市が二百

四十万円、四、三、三の割合でわつて更正されて

おります。(事業の内容です)と呼ぶ者あり)

○建設課長(新井重助君)概略御説明申し上げます。

館山湾の修築工事が始まりまして、一貫しまして

て防波堤を作つております。本年は約二十七ナ

トル近くで見る見込みになっておりますのでこれ
は下へわりぐりをつめますのでその上へコンクリ
ートの砂防をまゝてまましてその中へ砂をつめまし
て上部へコンクリートをやります定になつております。

一ニ番（田村喜兵衛君）今ある、しましだが、館山港は、澳
港でなくて運輸省になつていていくらか違ふいやな
いかと私は考えてあります。すがその莫はどうですか。
建設課長（新井重助君）ちよつとさ、とりにかくか、ついで
すが地え負担金、国庫の割合の率ですか。

(「そうです」と呼ぶ者あり) オ三種は二割
 五分、(「瀬港湾」と呼ぶ者あり) 港湾ですか、港
 湾の方は国が四割、果が三割、地元が三割、ということ
 になつております。それから、漁港の方は国が五割、
 地元が二割五分、果が五分、ということになつております。

す。

○一番(田村喜兵衛君)漁港と運輸省の港ではずつと
商港の方が率がいい、と思つておつたが、~~及~~対になつ
ておるのです。

○建設課長(新井重助君)お答えいたします。

当初漁港が二割五分、地元負担ですが、港湾が二割
ということだ、たので、最近になりまして本年
度から漁港が二割五分、港湾が三割、港湾の方が多く
なつてきております。(了承と呼ぶ者あり)

○歳長(萩生田七郎君)他で質疑ございせんか。

お借りいたします。歳案が二号、東案通り決定す
ること、その異議ございせんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○歳長(萩生田七郎君)異議なしと認めます。

よ、て議案オニ号は原案通り決定されました。
日程オ四議案オ三号

(書記朗読)

議案オ三号 船形小学校々舎増築及び既設校舎補修を費資金案
付收受について

○庶務課長(鶴沢貫資君)議案オ三号でございますが、めくり
まして裏のオト東京都の民生局の児童部長の
ら参りました通牒によりまして收受していいという
ものであります。

○議長(萩生田七郎君)の質疑ございませつか。
お参りいたします。議案オ三号、原案通り決定
すること、の異議ございませつか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(萩生田七郎君)の異議なしと認めます。

よって原案通り可決いたしました。

議長（菰生田七郎君）次に日程第五議案第四号。

（書記朗読）

議案第四号、船形小学校特別教室増築工事請負契約の締結について。庶務課長（鶴沢貫寛君）議案第四号について説明いたします。

東京都ハウの募付金百五十万圓を財源として、船形小学校特別教室、前々ございます図面の通り理科室三十五坪、準備室及び廊下十五坪、渡廊下二坪、合計五十二坪の設計によりまして五名の業者を指名いたしましたところ、石井繁太郎、最低でございますので契約いたしましたというものでございます。なお坪単価は二万八千圓八百

館山市議会

五十月にぎります。一月十一日に現場説明い
しまして十八日に入札をいたしました。
理科室でございすので付属施設といえしま
して電燈五、コンセント七、水道蛇口十五排水
溝等を含めまして設計してございます。

○議長(萩生田七郎君)ご質疑ございせんか。

お借りいます。日程才五議案才四号、東
案通り不決すること、ご異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(萩生田七郎君)ご異議なしと認めます。

よって東案通り決定されました。

○議長(萩生田七郎君)日程才六議案才五号、

(書目朗読)

議案才五号 生徒用机腰掛の購入について

。庶務課長(鶴沢貫資君)議案才五号について説明申し上げ
ます。

本件は三十五年にお入學いたします中学生、中学
校一年生の増員によりますものでございます。四
月一日から使用いたしますのでその前に購入し
ておきますと間に合います。この議案を
提出したわけでございます。三業者を指定
いたしました見積り合せをしたところ、館山木
工が最低でございますので契約したいという
ものでございます。

生徒用机腰掛、一組単価が千四百円、腰掛の方
が一脚四百五十円、なおこの代金の支払いは三
十五年を予算から支払いたいというもので

館山市議会

ございます。

議長（萩生田七郎君）ご質疑でございますせんか。
お諮りいたします。議案才五号 原案通り
可決することにご異議ございませんか。

（異議なしと呼びかけあり）

議長（萩生田七郎君）ご異議なしと認めます。
よって原案通り決定されました。

議長（萩生田七郎君）日程才七 議案才六号。

（書 記 朗 読）

議案才六号 館山市印鑑条例の一部を改正するにつて
市民課長（高木哲三君）議案才六号について説明申し上げます。

最近不動産について大分事故が起きております。

係で本人が世頭でない時は委任状でこれを
することができるといふことになっておりますが
この委任状に保証人をつけることになってしまし
てその保証人も館山市内の人ですとその捺した印
鑑に対して印鑑証明書をつけたいという事また館
山市内の人で印鑑の届きをしてある人は印鑑証
明をつけずともこちらの方の印を確認して印鑑業
務の万全を期したいと思ひこの条例の一部改正
を提案しな次方でございます。

なお委任状によりましては数は印鑑届が約四
割それから改印届が四割それから印鑑証明が
四割一分という数字になっております。

〇九番(嶋貫壮作君)オミ条とオ十三条をちよつと読み上
げてくれませんか。

館山市議会

○市民課長(高木哲三君)オニ糸館山市に記載されたる者又は外国人登録票に登録されている者で印鑑の届出をしようとする者は届出書に印鑑紙を添えて市長に差し出さなければならぬ。(「庫」えびいと呼ぶ者あり)

○議長(荻生田七郎君)代って朗読いたします。

(書 記 朗 読)

印鑑の届出である者は手数料を納付して印鑑の証明を求めることが出来る。但し印鑑証明書
の再証明を求めるときはできない。

2. 前項の証明の請求がある時は届出の印鑑を照合の上オニ号様式により証明するものとする。

3. 館山市の区域外に転出したものは新住所地にあって印鑑届出のためによるもの外は証明を求め

ことはでない。

4. 館山市の区域外より転入したものは転入届後
一ヶ月を経過しない時は証明をしないことがある

。七番(山本 昇君)本件につきましてちよつとご質問
していただくがこの印鑑の証明その他におきまして
慎重に取扱ひまして事故をなからしめんとするこ
とはさわめて必要でございましてこうして嚴重な
条例を作ることはやむを得ないと思ひます。この
条例を作るにつきまして何らかの基準とか上の方
からさういうふうなことをしろとかさういふ指
示に基づいてさうしたこととをされたかどうかは
一つ、それから十五条に前条才一項の場合におい
て本人であることとを確認しおける時もし人は同条
才二項の場合においては一人名以上のものゝ保証がな

館山市議会

ければならぬ。かような規定があります。が、この得証につきましての保証人の印鑑証明書をも必要と。これはさうわめて嚴重であります。もう少しこの実市民の利便をはかるといふ、ますか、実際にあって間違いないというふうな確認される場合にはあえてこの条例にとうわれず、もう少し簡便な方法によつて取扱ひするところができるかどうかとの二点につきましてあしえていただきます。と思います。

の市民課長（高木哲三君）最初の、実でございます。昭和三十四年の三月に大山市におきまして委任状によりまして交付した印鑑が本人の意思でなく無断で印鑑証明をもらつてその損害を大山市が負担した判決の例がございますので、館山市でもさういふ

ことが起きるといけませんので改正案をたてよう
うなわけでございます。

それからこれは上の指示はございません。

印鑑条例は国で別に規定がございますんで市町村
の条例によつて運営していくことになっております。
それから十五条の文でございますが意口

で人を見て一々知っているからといつてやりますと
どうしても事件が起るのは懇意の間柄とか肉親
関係が起き易いので融通はきかせずハ条例通り
や、ていく考えであります。館山市でも昨年

起きた問題でございますが親の財産を子供が
半分転売して今問題が起きておりますがそれ
もやはり委任状により交付した印鑑証明が原
因によるておりますのでなるべく懇意でもそ

館山市議会

ういう融通をまかせるといふことは一切せず
業務をまかすと煩雑になります。万全を期してゆ
えたいと思っております。

○九番（嶋貫壮作君）印鑑を届出る場合には御役の
ようは嚴重なことも考えられますが印鑑証明
をもらう時はまた別に考えないといけないと思
います。印鑑証明といふのは届出てある印鑑を証明すればそれでよいが
証明をもらいにくい、それも差をつける必要はないか
と思います。

○市民課長（高木哲三君）やはり肉新関係ですと印鑑の
所在がわかってありますので届けてあるものを本人の
意志に反してその使用ができるような状態でありま
す。……。

○一九番(鴻貫壮作君)がわら印鑑届がはつきりしていれ
ば肉親がいこうがそれがいこうととも印鑑と
同じものを証明するにはちとも差つかない。

○市民課長(高木哲三君)これは悪用される恐れがありますの
で……

○市長(田村利男君)父親の印をドラ息子で盗んで印鑑証
明を使うというような……

○一九番(鴻貫壮作君)印鑑証明はドラ息子にしてみられ
ては父親の印をもうう場合へ一向差つかない。
もう考える。

○市長(田村利男君)がわら父親がドラ息子に印を渡しそく
な場合、父親がいはいとき……

○一九番(鴻貫壮作君)印鑑証明をドラ息子に使、な場合
にそれは当然父親に手落ちがあるか何かひ一向

館山市議会

差しつかえないじゃないか。印鑑証明というものと印鑑届というものをば、きり区別がさればそう
いうふうな何はよいと思います。借用されると
か盗用されるというふうなことは届けてある印
鑑のまゝ、証明され、ばち、とも差しつかえないわ
けでその間に改印届をし、り何かするからいいけ
ないであらう、改印届をするときに嚴重な何
も必要とするけれども印鑑証明をするにはそ
んな嚴重なものはいらないと思う。
印鑑証明というものと印鑑届というものを区別
すれば差しつかえないと思う。といふところ君
は何か工合が悪いとがあるからといふ。その
工合の悪い理由を説明してみよ。

。市民課長(高木哲三君)まじめな人にはお気の毒な話

です。印鑑証明をとる時に委任状などで悪用する人がありますので……。

○九番(嶋貫壮作君)悪用するにもどういうふうに使用するのでか。印鑑届がしりしていけば悪用するにも悪用できないじゃないですか。

印鑑届の問題を混同しているからそういうふうになるでしょう。

○市民課長(高木哲三君)本人の財産を知らない間に売られてしまふ、なという……。

○九番(嶋貫壮作君)知らないうちにやられるのは市役所がぼやとしていているからだ。例えばこういう

場合にどうだとか……。

○市長(田村利田君)さ、さドラ息子、の例で言葉が変でしるが例えは息子の親の山を自分の名義に書い

た、と

館山市議会

と変えたいというふうな場合に親は息子に書きた
変えたくなくて女房に書きた変えたいという場合
そういう場合に息子が親の実印を親の居ない
間に借りてきてやるというふうな場合ですね。
そういうことがひきまうと本人の意思に反
する結果になる。それをまあ保護したいという
のがこの趣旨でございます。

○九番 鳩貫壮作君 それを保護するということは別に
お考えになればいい。借りにですよ、親の印鑑
を持ち出し証明をとってそのまゝ、使って何して
という時にはそれは仕方ないじゃないですか。
これを防止する親にも相当の手落ちがある。
盗んぞということが悪いのとそれと市役所で防止
するがためにせられてもだして差しつかえない。

印鑑証明を保証人が必要ならばださないとか何が必要とださないとか印鑑証明が必要なのはそういう場合のみ必要じゃないですか。大変不便なものを作り上げてしまうと思います。実行ができませんい。印鑑証明をもううなう印鑑証明をもらうでいいじゃないですか。印鑑証明はその判が確かに本人のものであるという証明をだしてえすればいいのだから。その間に市役所の吏員が何か情実でもってあるとか何とかいってある場合にはこれは困りますけれどもさもない場合にはある印鑑もある印鑑で証明をだすのですからさしつかえはない。例えば他人がもらいいいってだすべしはすのものです。

二一 飯田義男君 今の一九番議員の意見これ

館山市議会

は印鑑証明をもし悪意をもつてその印鑑証明
をやろうとすればいいのにこの条文を作つてもこ
れはどうかでもなると思うのです。結論は悪

い所持で印鑑証明をもらう人はどんな事でも
やりのねない。この条文がせゝかくこれまで作
つても無駄になりはしないかと思うのです。

かえつて良心的な人々ちに及ぼす迷惑のチが
多いような気がするのです。例えばこゝでドラ

息子に親の財産をとうとして印鑑証明を
もらいにきて。保証人をして、もらえばこれは

やゝばり結論は同じことじゃないかと思うので
すがね。館山で今までそういう被害をこうな
つたことがありませんか。どうでしょう。そ
うあるとつ。

。市民課長（高木哲三君）その被害でございす。が昨年
裁判でなにな、そのが一件ございす。それ
から親がきて子供が知らない間に改印してあ、
なとかという話でこれは本當の印鑑をもつてま
なからこれにしてくれというのが時々ございま
す。それはやはり相當悪用した結果。そういう
ことがわか、なじゃないかと思ひます。そうい
う例はよくございす。犬山市の場合もやは
り委任状で出してその損害を市でミ十何万か
もなせられた前例がございすので、鑑山市で
もそういうことを防ぐために保証人をつけてや
。ならしい、じゃないかと思ひまして条例の改
正をお願いしたいと思ひます。

。一九番（嶋貫忠作君）今君がエゲな例の旨矣というか

館山市議会

何というか、そういうことを起した原因はどこにあるか、そういう迷惑を及ぼすようになつた原因を作つたのはだれでしたのか。

市役課長（高木哲三君）それは本人の意思でない委任状によつてや、その場合です。

一九番（鴻貫壮作君）本人の意思でない委任状によつてや、その場合今まで委任状をだせば下げると

いうことになつていて、そうしたら本人の意思

であらうとばかりと委任状をもつてくれば下

げなければならぬ。その間に市役所の更員と

なれ合ひでや、それというならそれは工合が悪い

かも知れぬが市役所の更員が正當な実印であ

ると認めて証明をだした場合には一向差しつかえ

ない。

。市民課長（高木哲三君）大山市の例でございしますが……。
。一九番（嶋貫壮作君）大山市の例を君がもううらも
知っておいでになるかも知れないが僕にいわせれ
ばしらないと思う。どこに原因があつて大山市
に起こるような問題があつたか知りもしない例と
こゝにも、こゝで説明になつてもひすね直に
しこうしやりとするわけにはいかぬ。結局市役所
の職員が厳正な立場で厳正にやつておいて被害が
起つたという例は私はほとんど聞かない。市
役所の職員がなおざりにしてゐるために起つた例
はあるけれども厳正にやつた場合に起つた被
害というものを僕はきいたことがない。

。議長（萩生田七郎君）しばらく休憩いたします。

館山市議会

二時四十五分休憩

三時三十分再会

議長（荻生田七郎君）休憩^中に引続いて今議を開きます。

この今の出席議員数三十四名、

三三番（山口幸三君）途中から立ちまわして要領を得ませ
んが私の感ずるところによりますと委任状の向
題でどうも議事が進まないようであります。が
ちよつと検討してみると本人がこの人ならばと
いえばそれで通してもいい、と私は思います。と
ころが事務当局から言いつてみるとそこに大ま
な事故があつたようです。それで事務的
から考えれば委任状の上に更に誓約書という
ものを入れれば事務的処理はできるものであり

ます。けれどもこれはお互いに慎重に考える必要があると思ひましていろいろその筋によつて再検討してしめるうちに決定しても遅くないと私は考えます。

以上をもちまして私の所感を終ります。

。九番(志村信作君)先ほどからもめてもめぬいたようでありましてがお役所の方では安全に安全をというようなお考えでそうして細かくお渡しになつたと思ひますがこの際撤回されてなつた再検討をして提せられたら。国法は人の思想まで罰することはできません。人の行為で始めて罰することができます。常識をもって係員が取り扱つたことに対しては罪がないと思ひます。大い犯罪を防止するという条

館山市議会

件になる、てくると、これはむしろ裁判所の問題に
属する。送って一ぺん撤回なす、てさうに検討
なさ、てだしていいええええ、こう思う。今い
うくご修正のことごお話があ、たように思いま
す。その修正ではこうな、た以上は満足でき
ません。再検討をお願いいえします。

議長（萩生田七郎君）今から質疑を終えたいと思
いますので討論にかりまして十分ご検討をお願
いしたいと思ひます。討論にかります。

二八番（安西政治君）いろいろ先ほどからそれ、の考
え方を皆様お申し上げておられるようです
が私は本議題にありまして内容を検討して
また実際に促した面を考えますと原則的に
はこの条例でい、と思ひます。なぜならまず

最近西岬などにおきましては非常に土地ブローカーが横行しているようであります。これはいわゆる観光ブームとでも申しましようか。そういう、たものによりまして土地ブローカーが動いており当局が答弁しましたに憂いも再び起るのではないかと考えられるのである程度嚴重にすべきであると思っております。

いま一つは「本市において印鑑登録をしてある場合にはこの限りではない」という一項がございますので実質的には印鑑証明をすむに印鑑の届出としてある場合にはこの人が委任状をもらい同時に保証人になることが可能であるとするならば従来と手続は何ら変わりないかと思うからでございます。そういうことから

館山市議会

考えますと外部から入、てきた者、例えば土地
ブローカーのごとき者がせがれをだまかした
とか年暮りだまかして何か事をたくらむと
いうことが起った場合には非常に本人として
確認しがいまいというような場合であると思ひ
ますのでこういう時に初めてこの条文が適
用されてなるべく事故を未然に防ぐという
意図のあり方を示しているわければあとは窓口の
運用の妙によつて従来と何ら変わることもなく
実質的にはできるのではないかと思ひますので
原案に賛成するものであります。

○六番（松本藤太郎君）今一八番議員からブローカーの例を
取られましたのでこれではよろしいんぞと、原案に賛
成だという意見でございますが私は反対の立

場で意見を述べてみたいと思います。

この場合ブローカーが必要するに悪いとも、やる場合何とい、ても防ぎようがない。この条文でいいますと本人であるということと窓口で確認しなかつた場合それを確認してもらつた場合、それを指定して確認するの。そういうことまでやるのかどうか。それのうらあなだが確かには本人だといふ証明をも、てきなさいとい、た場合に同じつさくら要するに仲間のものがこれを保証した場合はどうするか、同じ結果をでてくると思う。悪意でも、て出発してゐるのでありまうすのうらその過程においていかにこのようなくとをや、ても本人がでてこない以上何にもならぬ、同じような結果にな、てしまふ。

館山市議会

このように私は考える。現在委任状というものの
によつてすべてが処理される。これははつき
りと法で定められてゐる。でありますので大
山の問題でございます。どういふものか本
文だけでわらうまい。内容と理由をはつき
りと裁判の理由が明らにされないといふやうな
い。たゞさういふことでははつきりしない。
でありますのでこの場合委任状というだけで
私はいゝと思ひます。で本人であるかないかと
窓口で確かめるといふ場合どうして確かめるか。
知つてゐる人以外は全部確かめられない。さうい
う場合には委任状をもつてきなさい。あるい
は委任状をもつてきた場合にあらうても証明書な
もつてきなさい。さういふことといわなくてはな

うまい。實際に悪意があつてやるという人は千人に一人、万人に一人、そのために大勢の善良な市民が毎日このために迷惑をこう受ける。市の窓口というものはやはり市民の利益を願つてやつていくことが大事だと私は思う。で委任状という制度は、とりとされてゐる以上委任状によつて一向差しつかえない。それによつてどうした場合明らかでこれは犯罪である。防ぎようのないものである。このように考える。この条文でいいますと非常に嚴重のようでありますがこれによりは決して防げるか。出発が悪意によつてやつてゐるかう防げない。こういう結果おでてくる。これによつてこうある市民の迷惑というものが非常に大きい。送つてこ

の問題については本人であるか否かは確認できなから、その場合にどうするかという問題ですね。委任状それから委任状をもらってその場合にこれはおぼろしくて完全な委任状であるか否かという判断を下すにどうしたらいいかという問題になってくるわけですね。で窓口で危ないと知って人以外はそういう感じがでるんじゃないか。あるいは服装によつてそれを判断するかどういふふうにするか、一休担当の課長さんは窓口の係員にこれを指示するか。こういう条文がある以上は一層責任がある。私はこう思う。でももう一ぺんこれは検討してそうしておぼろしいかもしれない。こういうふうな考えます。

。九番(志村信作君)重ねて申しエゲます。

今松本議員のご説は私と違つて合致して
おります。かつてナポレオンが欧州を征服
しました時にナポレオン法典を作った。その
時の各国民がそれだけのナポレオン法典を
作つたのだかうもう犯罪がでないと信じて
おつたのかも、わづ相変らず犯罪がでた。
ナポレオンいわくこれまでにしても犯罪がで
るといふといふ話です。今このうした向題
をだされますと一般の市民は本當に困る。
今までは一日で用が足りた印鑑証明を二日
三日かかる。そういうふうなことになる
とさう印鑑証明をもらうために向合
つていふことになりすすませんか。

ずらに取扱い係員の業務の煩雑をさします。
 この点も非常に不便であります。自分で
 自分の首を縄でしめて仕事がいそがいそと
 いうような結果になります。常識をもちて
 係員は頭をもつてこの人は怪しい人がたと
 いうようなこととをわめてそれに対して善処
 していただくといふこととが、い、と思ひま
 す。この原案は一応撤回を願ひたいと思ひま
 す。

○七番(山本 昇 君)本件に対し、さういふく意見
 見方をましてそれだけの立場において意見
 だ、ともでござります。本来でありますなら
 ば委任状にまた保証人をつけるということは
 甚だどうかと思うこともあります。

さういふ議案を提出し制定しなければならぬという一つの理由もあるかと思ひます。これは大山事件に関しましては市が委任状によつて発行したとによつて犯罪の結果、市が調査不十分という点において市が補償を払わなければならぬということをお願いされましてこれは裁判の結果でありますがいずれにしてもさういふことが大きく市民にも影響することでありますのでいさ少し慎重に検討したいと思ひますので私はここで勸議を申し上げたいと思ひます。本案も今少し検討するに当り総務委員今に付託いせまじやうとやうな事をいふ。さう申し上げる次第です。

議長（中村圭田）は即ち休憩いたします。

館山市議会

三時三十分休憩

四時十五分再会

藏友(萩生田七郎君)休憩から引続き今議を開きます。
私討論の宣告をいたしましたので十分賛
否の意見の発表を願います。

ご承知でございまして、うが討論へアリス
すと緊急の議事進行の動議はでせませんし
また賛否の意見は一人一周ということと相
なるわけで賛否の討論を得る上で可否を決
定したいと思っております。

二番(黒川佐太郎君)本案へつづきまして、
説明はちやうと私十分だと思ふのであり
ます。私思うに悪意に利用するとか利用し

ないとかいう問題もより大切なことはその責任
の去就は市役所にくるかこにないかということ
私は大きな問題があるのじゃないかと思ひます
その意味におさまするとかりに保証人をつけ
た場合にはその責任が保証人にくということ
が考えられるのであります。およそ法律によ
ても条例によつても起り得るあらゆる面を勘案し
て作らねばならぬと私は思ふのであります。

そうして意味で市役所がかりに責任を負う
ということになりますと結局その損失は市或
のわれ／＼が負うということになりますので
市としても非常によくないじゃないかと、ち
ろん私は手続の上の問題におさましては反
對される方々と全く同感でありなるべく事

館山市議会

勢は簡略にしたいということはいつも考えて
あるところであります。この点に限りま
しては私はこの通りでおくことが妥当であろ
うと思うのであります。従って賛成であり
ます。

議長（萩生田七郎君）ご発言でございますか。

討論終結と認めてよろしいでしょうか。

（黒澤議長と呼ぶ者あり）

議長（萩生田七郎君）それでは討論は終結したものと
認めます。

続いて表決を行います。

原案に
賛成の方の起立を求めます。（起立多数）

三十三名中十八名起立多数、よって原案は可
決確定されました。

議長(萩生田七郎君)読みて日程第八議案オ七号に移ります。

(書記 朗 読)

議案第七号、昭和三十四年度館山市歳入歳出追加更正予算、
。総務課長(山口 史君)例へよりまして歳出より説明申し
上げます。

二款市役所費の需用費、食糧費と光熱費が
不足レバので負担金補助金と更正しまして食
糧費に二万月、光熱費に三万六千月追加更正
しようとするものであります。

三款消防費のうち消耗品費、光熱費に不足を
きたしたので燃料費より消耗品費へ二万月、
光熱費へ三万月追加更正しようとするもので
あります。

建設課長(新井重助君)が三款土木費についてご説明申
し上げます。

五項水道費のうち更員給二十万三千五百十
月、技師二人と主事一人の三ヶ月分の給料で
ございます。それに伴います五節の職員
手当五千月でございます。この財源は昨年
度に沈澱池、濾過池の砂を換えましてその
濾過場の砂が新しいのでそれを洗浄する
人夫賃金が今年には非常に少ないので五
万月流用していいと考えております。消耗品
の中から十万月そろえられていくのであ
ります。が本年は水が非常に多くございま
して沈澱用の薬品が非常に少ないので
この費用が浮きましたので、えもっていま

大いと考えております。

工事請負費五万八千五百^十月分は今年分は昨年比
上にありましてこれ位減らしても差しつかえ
ないと考えた次第でございます。以上でございます。

○厚生課長(渡辺 茂君)八款社会及び労働施設費につ
いてご説明申し上げります。

西岬見物の鳩山さんの別荘跡へ建てたる休養
施設の建設につきましてはかねてからご審議
わがざらわしてある中でございす。が財源の
みとありましてございぬのでとりあえず当面
の建設費を計上いたし工事に着工したいと存
じまして提案した次第でございます。追加
額は千六百百月分そのうち貸金の一万五千

館山市議会

月分は整地に要する人夫賃でございます。消耗品はわら縄、釘、抗木、そういふものです。委託料の五十万月分は附柱設計監理委託料です。

二四節工事請負費千五百四十二万月分は本館並に附帯建物の工事請負費でございます。

乗材料は付記に書いてある通りでございます。需要費の二万五千月分は文具費打合せ会等賄料、印刷費、通信運搬費、工事器具の借上等でございます。

第九款保健衛生費の追加更正でございます。隔離病舎費のうち手数料で四千五百月分は隔離病舎に今年入りました者が十五人ございまして、その家族がおりますので家族の細菌検査を委託した手数料で一人百月でございます。

めくりましてと場費で差、向と場に電話が
ありませんでしたので今回電話を敷くことに
なつたわけで新年度の予算で敷こうと思いま
したのです。電報電話所から共同で電話を
敷いたうは安くあつたんじやないかという話
レがございましてなので共同で敷こうと思つて
あります。ところ、一高の事務長渡辺佐一さ
んがこの近くにおりました。でも電話を
敷きたいと申しっておりますので共同で申
し込みまして普通で敷くよりも七万円ほど
安く致しますので地元住民へ便宜と保健所
市役所、と場内の事務連絡の能率化、業者
の便利等を考えまして設置しようとする
者で電話は架設費が十一万四千四百円で

館山市議会

通話料としてあるのは二月い、ばいに敷くそ
うでございますので三月の維持費千四百円。
切換え料が二百円でこれらの賅添は又葦子場
以下の各項で更正充當してございますので
よろしくお願いいたします。

。商工水産課長(羽山房雄君)一口款の産業全済費の説明
をいたします。

水産費におきまして今回六十五万の追加を
願ひいたしました。これは浅海増殖事業
補助金で昭和三十四年度におきまして湊港
の設置事業に対する補助金です。この

実施組合は船形相浜伊戸の三組合で総額
百一万六千九十五万の工事になり県の補
助金約六割四分の割合で交付されるもの

です。なお同額の県費補助金を歳入に見込んでございます。よろしくお願いいたします。

。税務第一課長(伊藤幸太郎君)続きました。一五款諸支出金についてです。五事項の過年度支出金は税金の過誤納の還付金で不足しましたので五万円計という。その減額は県税費の職員手当から五万円更正減しました。この五万円は差押えの件数が非常に減りましたのでその分を更正したというふうに考えられます。でございます。

。総務課長(山口実君)歳出合計三億八千五百三十三万五千八百十九円。今度の追加額千六百六十五万。合計三億九千九十八万五千八百十九円。

次に歳入について説明申し上げます。

たゞ今までの歳入を支払うために第一款市
税で電気がス税の値上りを更正しまして
百五十万、

八款果支金においてたゞ今説明はな、六十五
万円、

十三款市債において千五百万円 合計千六百
六十五万計上いたしました歳入しようとする
ものでございします。 合計額三億九千九百九十
八万五千八百十九円 歳入歳出零でありま
す。

歳入(歳入田七郎君)以上で説明は終了いたしました。御質
疑ございしませんか。

〇一三番(田村喜兵衛君)収入の産業を済の浅海増

殖の問題について国庫大割五分というんで
す。ちよつと市と受益者とはどんなあれな
んですか。説明願いたい。

商工水産課長(羽山房雄君) 今回の追加予算は果
實の補助指令とその子、受け入れまして歳
出に細み入れたものでございまして市費の
持出しはございせん。以上。

議長(萩生田七郎君) お諮りいたします。

議案オ七号 果実通り可決することへ御異
議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(萩生田七郎君) 御異議なしと認めます。

よつて議案オ七号 果実通り可決されました。
以上ともつて本臨時会を閉会いたします。

長い間ごろう様でございます。

午後四時三十分閉会

右会議の次第を録し、以て署名す。

昭和三十五年一月二十二日

館山市議会議長 荻生田七郎

同 署名議員 志村信作

同 鈴木房太郎

